

## 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月27日(水) 5校時

児童 第2学年 男14名 女13名 計27名

授業者 教諭 村上 誠

1. 単元名 「だいじなところに気をつけて読もう」(2年 上巻)  
教材名 「サンゴの海の生きものたち」 もとかわ たつお

### 2. 単元(教材)について

第1学年及び第2学年の国語科の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。さらに内容においては、「(1)読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。ア 易しい読み物に興味を持ち、読むこと。イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」とある。

本単元は、第2学年上巻「わけをかんがえながら読もう」に次ぐ説明的な文章の単元である。前単元では、時間的な順序に気をつけて読むことを学習したが、本単元では、生き物の違いに応じた共生の方法を順序立てて説明した文章を読む学習をする。

本教材は、日ごろなじみ深いとはいえない海の中の共生について述べた文章である。文章の初めの「たがいにやくに立つようにかかわり合っくらしている・・・」の言葉が、この教材文のキーワードとなっている。さらに「どんな生きものたちが、どんなにかかわり合いをしているのでしょうか。」と続く言葉が、文章を読み解く課題文の役割をしながら、読み手を海の中の共生の世界に連れていく。鮮明な写真が使われているのも、書かれている情報を十分に補い、学習活動を進めるうえで大いに役立つ。

本学級の児童は、家庭学習として音読に取り組んでいるせいもあり、比較的音読が上手である。教室では、時間があれば学級文庫・移動図書館の本を楽しんで読んでいる姿もみられる。読むことが好きで、いろいろなことについて読んでわかりたいと願っている。学力検査の結果においても、読む領域に落ち込みは見られない。しかし、普段の授業の様子を見ると、読めてはいるが、自分の興味関心のあることに視点が置かれがちで、言葉の持つ意味、文章の関係から内容を正確につかむことができていないように思われる。

以上のことから、本単元の指導にあたっては、重要語句と思われる言葉、接続詞、文章の主述関係に着目させ、自分の経験や考えと結びつけたりする学習活動を取り入れることで、内容を正確につかませることに重点をおきたい。さらに内容理解を補うと思われる音読や動作化を設定していく。単元の終わりには、図書室で生き物についての本を見つけて読む活動へと広げたい。また、「ン」「ソ」の字形の違いをはじめとして、片仮名を正しく書けるよう指導したい。

本単元で取り扱う海の中の生物が共生しながら生活している関係をつかむことは、総合的な学習の時間の「情報を読み取る力」「必要な情報を明らかにする力」「情報を比較して考察する力」「結果や考えを順序立ててまとめる力」を支える力になると思われる。

### 3. 学習指導目標

- <目 標> 説明の順序に気をつけながら、サンゴの海の生き物たちが互いに関わり合っ  
て生きていることを読み取る。  
生き物について書かれた本をすすんで読む。
- <関心・意欲・態度> 教材文を読み、「見てみたいな」「不思議だな」のような感想を持ち、進んで  
生き物についての読み物を読む。

- <話す・聞く能力>・読んで初めて知ったことや不思議に思ったこと，見てみたいと思った生き物などについて，話したり聞いたりする。
- ・登場した生き物になって，話したりして動作化する。
- <書く能力> 登場した生き物になって，関わり合っている相手に感謝の気持ちを手紙に書く。
- ・生き物について面白いと思ったことなどをミニミニ新聞に書く。
- <読む能力> 説明の順序に気をつけながら，サンゴの海の生き物たちの様子や関わり方について読む。
- 語や文のまとまりや内容を考えて，はっきりした発音で声に出して読んだり動作化したりする。
- 生き物について書かれた本を探して読む。
- <言語についての知識・理解・技能>・平仮名や片仮名を正しく，はっきりした発音で読む。
- ・敬体で書かれた文章の文末表現に注意して読む。

#### 4. 指導計画（12時間扱い 本時6/12）

- [つかむ] 掲載写真を見たり教材文を読んだりしてイメージを広げ，感想を話し合う。・・・（1）
  - ・題名や写真について、想像を膨らませ、話し合う。
  - ・本文の範読を聞き、感想を発表する。
- [みとおす] どんな生き物が書かれているか読み取り、今後の学習の見通しを持つ。（1）
  - ・形式段落ごとに番号をふり、意味段落に分ける。
  - ・大まかな文章構成をとらえ、学習のめあてを確認する。
- [ふかめる] サンゴの海に生きる生き物の話を楽しく読む。・・・（6）
  - ・イソギンチャクとクマノミの関わり合いを読み取る。
  - ・生き物たちになって説明したり動いたりする。
  - ・イソギンチャクとクマノミの関わり合いをまとめる。
  - ・ホンソメワケベラと大きな魚の関わりを読み取る。・・・（本時）
  - ・生き物たちになって、説明したり動いたりする。
  - ・ホンソメワケベラと大きな魚の関わりをまとめる。
- [まとめる] 学習したことに自分の考え、気持ちを交えながらカードに書く・・・（2）
  - ・生き物たちの関わり合いについてまとめたことを振り返る。
  - ・生き物たちになって、関わり合っている相手にお礼のカードを書く。
- [ひろげる] 海の生き物についての本を読み、紹介する。・・・（2）
  - ・生き物についての本を読む。
  - ・本と読んだ感想を簡単にミニミニ新聞にまとめ、友達に紹介する。

#### 5. 本時の指導

##### （1）目標

ホンソメワケベラと大きな魚の様子と関わりを読み取る。

##### （2）具体の評価規準

A：教材文の説明をもとに，ホンソメワケベラや大きな魚の関わりを他の生き物の関わりも含めながらとらえることができる。

B：教材文の説明をもとに，ホンソメワケベラや大きな魚の関わりをとらえることができる。

##### （3）展開

	学習内容と活動	学習上の配慮事項	評価観点
つかむ 3分	1. 前時までの学習を想起する。 2. 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           ホンソメワケベラと大きな魚のかかわりを読みとろう。         </div>	前時までに行った読み取りのようにホンソメワケベラと大きな魚の関わりを読み取ることを確認し、本時の意欲づけを図りたい。	
みとおす 3分	3. 課題解決に向けての見通しをもつ。	イソギンチャクとクマノミの関わり合いを考えた時と同様に、重要語句(大切な言葉)を手がかりに考えることを確認する。	
ふかめる 32分	4. 本時の学習場面を読む。  5. ホンソメワケベラと大きな魚の関わりを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンソメワケベラがどんな魚か、とらえる。</li> <li>・ホンソメワケベラと大きな魚を写真からとらえる。 (文中の記述や相対関係から)</li> <li>・ホンソメワケベラと大きな魚のかかわりを自力解決する。 (ノートにまとめる)</li> <li>・ホンソメワケベラの行動について読み取り、考える。 (動作化)</li> <li>・ホンソメワケベラと大きな魚が、一緒にいるわけをとらえる。 (双方にとって一緒にいてよい点、危険な点に着目させて)</li> <li>・大きな魚が、ホンソメワケベラに関わっていることについて、考える。 (話し合い)</li> </ul>	前時までに読み取ったことや動作化したことふまえ、大事なところはどこかを意識させながら読ませる。  色、目じるし、大きさなどの記述や大きなという言葉に着目させる。 記述に戻りながら確認する。  ホンソメワケベラが大きな魚の口の中に入っていくという事実を押さえる。 逆接の接続詞「でも」に気づかせる。 「そうじ魚」と「食べ物」が結びついていることを押さえる。 ・「そうじ」とはどうすることか  記述に戻りながら確認する。 ・「～する」「～される」の文末表現に着目させる。 ・まとめる時間の契機とする。	(読む) ホンソメワケベラと大きな魚の関わりについての重要語句をとらえていたか。 挙手・発言  (読む) ホンソメワケベラと大きな魚の関わりを理解したか。 挙手・発言

ま と め る  5 分	6. ホンソメワケベラと大きな魚の 関わりを簡単な図で確認する。 ・ホンソメワケベラは大きな魚を... ・大きな魚はホンソメワケベラに...	言葉の関連に気づかせる そうじする...えさ、食べる そうじしてもらう(される) ...きれい、さっぱり	(読む) ホンソメワケベラと 大きな魚の関わり合 いを自分の言葉でま とめていたか。 挙手・発言
ひ ろ げ る 2 分	7. 本時の学習について振り返る。	振り返る視点 ・学習内容について ・学習態度・意欲について 次時の学習内容を大まか にとらえる。	

(4) 評価

ホンソメワケベラと大きな魚の関わりを読み取ることができたか。

(5) 板書計画

